

# YACかわら版 466

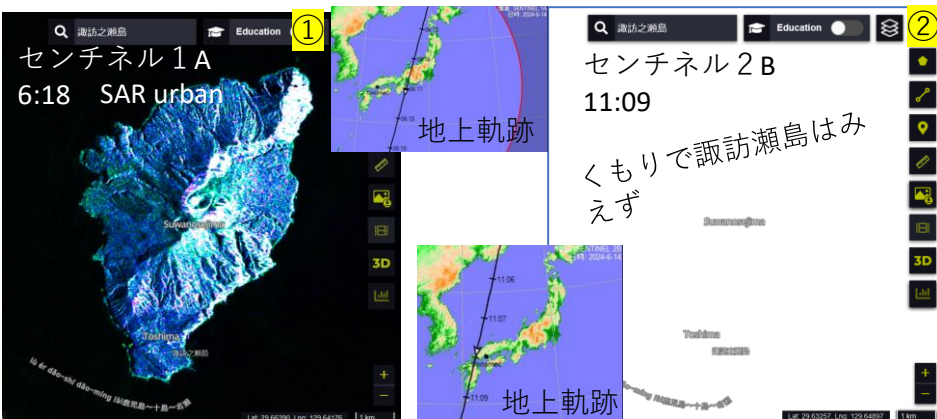
2024年6月16日

## センチネル1-Cを待つ その2

諏訪之瀬島は、気象庁の「噴火警戒レベル2、火口周辺規制」が継続しています。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/activity\\_info/511.html#kaisetsu](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/activity_info/511.html#kaisetsu)

6月14日、センチネル2Bとセンチネル1Aの観測がありました。①②  
センチネル2Bの観測時刻頃の諏訪之瀬島周辺は曇りです。③  
電波で観測するセンチネル1では雲下の様子がよくわかります。



かつて、センチネル-1Aと-1Bと2基で12日毎に観測していましたが、センチネル-1Bのアンテナ電源装置に異常が発生し観測ができなくなりました。同じ型のセンチネル-1Cは「YACかわら版393」で説明しているように、昨年度に打上予定でしたが、打上に使用するロケットの都合で未だ打上待機中です。衛星は完成しています。

さらに2024年ESAの計画表でも、センチネル-1Cは「TBC」=「確認中」です。現在の12日毎の観測が、6日毎の観測になることを待っています。

ところで、センチネル1と同じSAR衛星の、だいち4号が6月30日打上げられます。だいち2号の後継機です。近々にだいち4号を紹介しましょう。

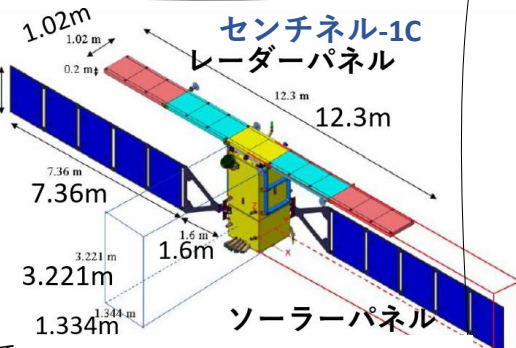
ESAのセンチネル-1シリーズは、I-1A（2014年4月3日打上）およびI-1B（2016年4月25日打上）の2基をつかって、

昼夜を問わずCバンド（約5.5cm）合成開口レーダー（だいち2は波長約25cmLバンド）で

天候に関係なく画像を取得していました。そのI-1Bが失われました。設計寿命は約7年だったとか。

センチネル-1は、同じ場所を次に観測するまでの回帰日数は12日でした。2基運用でしたから、6日毎にデータが届けられていました。...

YACかわら版393 2023年9月7日再構成



<https://spaceflight101.com/copernicus/sentinel-1/>

## ESA 予定表 2024

センチネル I-Cの打上は、ベガCが予定されていました。



アンナ・マリア・トロファイエ博士の2023年9月11日の「X」投稿意訳

私たちは皆、センチネルI-Cを楽しみにしています。センチネル-1Cの準備はできているのに保管されています。打上ロケットを待っています....

[https://x.com/search?q=Sentinel-1C%E3%80%80Launch&src=typeahead\\_click&f=top](https://x.com/search?q=Sentinel-1C%E3%80%80Launch&src=typeahead_click&f=top)